

## イルカ追い込み漁の実態

### 0 はじめに

今回太地町の漁業組合に電話をして、実際にイルカ漁業はどのように行われ、今までにどのような改善をしてきたのか、そして今後のイルカ漁業に関して心配してることは何かということを探ねました。

### 1 追い込み漁の具体的なやり方

- ・船12隻で追い込む
- ・鉄管をたたいてイルカを湾に誘導
- ・網を仕切りとして使う

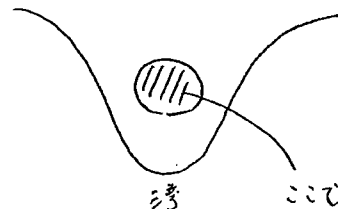
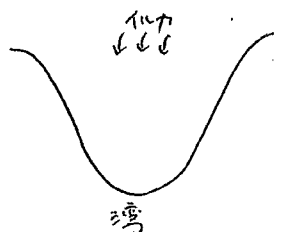
### 2 イルカ追い込み漁の際に怪我などはしないのか

⇒入院するほどの怪我はしないが、打撲などのちょっとした怪我は多くある。だから具体的に数えることはない。

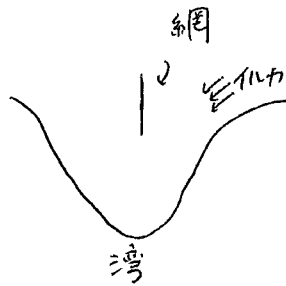
### 3 国に追い込み漁の装置に関して改善してもらいたい点はあるか

⇒特にない。怪我をするかしないかは結局イルカ追い込み漁にどれだけ慣れているかが重要で慣れてしまえば怪我はほとんどしない。また、改善策に関しては、普段追い込み漁をやっていて不便だなと感じるところは自分たちで改善している。例えば、網の配置などである。

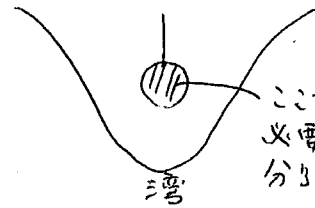
改善前



改善後



片方からイルカを寄せ



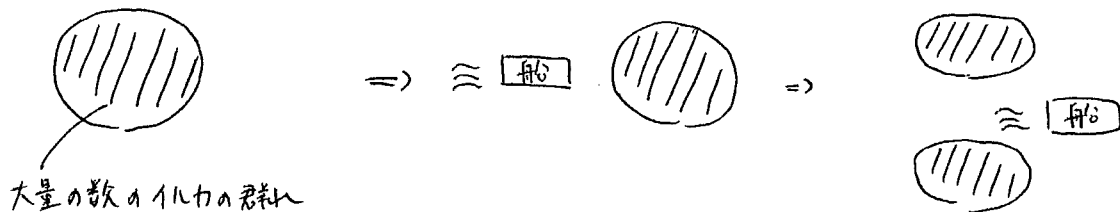
分り

このように、湾に垂直になるように網を配置し、片方から誘導し、そこで要るイルカと要らないイルカを分別して要らないイルカはもう一方へ抜かせることで、効率よく追い込み漁を行うことができるようになったという。

#### 4 その他の豆知識

・どれくらいイルカをとるのか。捕り過ぎはないのか。

⇒捕りすぎることは絶対はない。国が定めた捕って良い数は守っている。また非常に大きい群れに出会ってしまった時は、



といったように、船で群れを引裂き、数は前もって減量する。

・伝統的な面に関して今最も心配していること。

⇒これはやはり、イルカや鯨の解体についてである。この解体のやり方は昔から変わってなく、特注の包丁でさばいている。そして現在はこの包丁を使ってさばくことが出

来る人は数人いるが、段々出来る人が減ってきている。だから、今後さばき方をどう  
継承していくかが、漁師さんにとっての今最も重要な課題となっている。